

2013年10月17日、秋葉原のイベントで、**内田裕也さんが**、あのドタキャン前科があるロシアのタトゥに「**北方領土返還よろしく♡**」と迫った。メンバーのリエーナ・カーチナは「絶対返しませぬ」と応戦した。内田裕也さんは樹木希林さんの旦那で、本木雅弘さんの奥さんのお父さんといった方が説明は早いだろう。兵庫県出身で大阪の堺市育ちだから北方領土とは縁があったのかは不明だが、よくぞ元祖共産主義国家の金髪・ブルーアイに物申ししてくれたと褒めたい。

北方領土は「日本固有の領土」

来る2月7日は「北方領土の日」である。他府県の方たちには馴染みは薄い、この日だけは共産党支持者の拜金主義者も自民党支持の共産主義者も異域同舟のごとく声高々に「返せ、北方領土!!」のシブプレヒコールを街中に響き渡らせるのだ。思い起こせば、あれは1968年の雪まつり開催どきであったと記憶する。今はもうやめてしまった真駒内・陸上自衛隊内の雪まつり会場に家族で訪れた。ちょうど北方領土返還の署名活動があり、10歳のガキがなんの役になるのか不思議だったが、係の人にせがまれて署名をした。時は流れ、08年9月に根室から3・

7kmの北方領土に属する貝殻島国境まで小型機で行くことになった。180m先に国境が存在していた。なぜ距離がわかるのか? 国境まであと1マイル、0.5マイル、0.1マイルとしっかりと航空自衛隊が我われをモニターしてくれていたのだ。彼らは、誰かが使う「中間ライン」などとは言わず、国境という言葉を使った。今で言うADIZ(防空識別圏)と重なる空域である。この先には異文化が存在していると考えるとやはり武者震いに似た緊張が走った。眼下には海上保安庁の巡視船が国境付近に停泊していたし、以前は国境に近づいただけで貝殻島から機銃掃射されると言われた空域だからだ。実現はできなかったが、こんな話もある。91年に国後島・古釜布ふるかまふにセスナ172で行く計画を立てた。中標津VORから065度、43海里、飛行時間40分、女満別VORからだと090度、47海里、飛行時間45分。高度は最低3000フィートあれば、航法的には楽な飛行である。関

Vol.69

内田裕也、あんたはエライんでナイカイ?



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

係官庁との打ち合わせをしたが、厄介だったのは外務省だった。ロシアの担当は松尾課長という人で、彼は黙って私の計画を聞いていた。「ところでその飛行機の国籍(正しい表現です)とミヤイさんの国籍は?」と聞かれたので、「国籍が関係するのですか?」と返したところ、「**日本国籍だったらその計画は潰します!**」とドエライ剣幕で怒鳴られた。

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

なんでも平成元年の閣議了解で、日本人がロシアのビザを取って北方領土に行くことは相手の領土だと認めることになるからダメだという。「だったら、三沢や横田の米国軍基地にある自家用機Nナンバー（アメリカの国籍）で米国人が行く場合は問題ないのですか？」と聞いてみたら、「手続きに従っていただければ問題ありません」だって。

実は韓国が専有している竹島にも同じような注意が外務省から出ている。では尖閣には？ 巷ではよく北方領土は「日本固有の領土である」という。日本領土であるという主張だったから、なぜ「固有」という単語をつけるのか？ 国家の定義は国民、主権、領土の3つなので、北方領土には日本国家は存在しないから固有の領土というカテゴリーを設けたのだろうか？

同じような表現が「尖閣諸島が日本固有の領土である……」と外務省のホームページにも書かれている。竹島の項でも「我が固有の領土です」とある。北方領土、竹島、尖閣諸島の歴史的背景は同じではないが、「固有」という同じ表現を使っているのはなぜか？ やはり海外から見ると日本の主張のどこかが矛盾していると指摘されても仕方ないだろう。もしかして「返せ、北方領土！」

と叫びながらも本当に帰ってきたら困る？ だって、米国がロシアからアラスカを買ったときの様に1年分の国家予算が必要になるから？

誰が国際常識を教えるのか？

さて、改めてこの北方領土の歴史をひも解いてみよう。ここからは、**真ッ赤**が多かった北海道の学校の先生が生徒に教えなかった不都合な真実から始めましょう。

北海道・根室の東にある歯舞、色丹、国後、択捉が当時のソ連に占領されたことに起因する。ソ連の参戦は終戦の7日前の45年8月8日、8月29日から9月5日にかけて北方領土に軍事侵攻した。ソ連の言い分では「8月15日の終戦はあんた（日本）が勝手に戦闘を止めた日ではないよ？」9月2日に米国艦艦ミズーリでソ連も含めた国際的に正式な降伏文書に調印したその日まではドンパチやりまっせ！ だからその日までに占領した領土は取ったモン勝ちでっせ！」となる。あいつらのスパシーバな言い分はもつともだ。

当時、日本はソ連と中立条約を結び、お互い戦争はしないことになっていたが、参戦の4カ月前には残存期間を残してこの条約を延長しないと日本に通達した。問題は、ほとんどの道民が何の連絡もなしに中立条

約を破ってソ連軍は進軍したと思っ
ていることで、誰かが刷り込まされた教育の嘘がそこにはあると感じる。もちろんソ連の学校教育でも**自分たちの歴史は正しいと自国民の子供たちに教育していた**のだから、いい大人になっても過去の自分の受けた教育を否定する能力は、日本人を含め、どの国民も持ち合わせていないので、**我々の領土だ！となるのは当然**である。

ソ連式正しい教育の賜物のもう一つの例が、明治の時、日露戦争でのバルチック艦隊撃破の事実だ。日本では勝った、やっつけた！とドンチヤン騒ぎだったのであるが、「あれは引き分けです」とモスクワ教育を受けたロシア人は私に日本語で説明した。やはりここでも、大東亜戦争の起因の一つであるソ連はドイツと戦っていれば安全・安心だとした、無垢で無知な日本式の歯車の掛け違いが生じたのだろう。

所詮、国家にとって教育とは、おとなしい納税者で、GM（遺伝子組み換え）を否定しない生産者か、ゲイであっても勇猛果敢な戦士になるための洗脳作業であると私の子供たちの米国人先生は同意した。では**誰が国際常識を教えるのか？**

まっ、そのうちTPPで日本式教育も改定され、米国式の勝者はす

べてを取り、負者はすべてを失う。的な教育を長沼でも教えることになったときに、子供たちは簡単に洗脳され、親たちがウロタえるのは私の責任でない。そのことだけはご理解いただけるでしょうか？

話を北方領土に戻そう。おとなしくソ連がこの4島に留まっていれば、北海道の先生も嘘を教えないで良かったのに、57年ソ連の国境警備隊が貝殻島に上陸した。そして日米安保条約下にある米軍は動かさなかったのだ。これこそ安全・安心からかけ離れている話ではないか。

尖閣諸島でも同じことになるのではないかと危惧する。人の住んでいない島くらい良いではないか？とアホ面下げて言えるのは、限られた文化圏の絶滅危惧種の特定アジア人だけである。歴史上、侵略者にケツ振って、手を振って幸せになった国民はいない。ちなみに米国は侵略者ではなく同盟国である。

サハリンからの引揚者が半分を占める私が住む地区で、先輩たちはロシア人を露助と愛すべき蔑称で呼ぶ、ちなみに米国人はラスキー（Rusky）と呼ぶ。愛する露助さんも協力していることに産地偽装を疑うアホーな道民はいない。皆さん、これからも北方領土の北海道産のカーニを美味しく食べてくださいね♡